

平和祈念像 色鮮やかに

長崎 3月完了 竹中銅器(高岡)塗り直し



塗り直しのための作業が始まった
長崎市の平和祈念像―28日

料を全体的に吹き付けて本来の色合いに戻す。併せて、台座に生じているひび割れも補修する。

作業員らは28日、祈念像の周りを立ち入り禁止にして安全を確保するため、高さ約1.5mの柵を設置。像を囲んでいる御影石でできた池の水も抜き、デッキブラシを使って清掃した。池はゴム製シートで覆って保護する予定。

平和祈念像は青銅製で、高さは本体が9・7m、台座が3・9m。天に向けた右手が「原爆の脅威」を、水平に伸びた左手が「平和」を表し、まぶたを閉じて犠牲者を悼んでいる。彫刻家の故北村西望氏が手掛け、終戦から10年後の1955年8月に完成した。前回の修復も竹中銅器が請け負い、99年10月から2000年3月にかけて行われた。

長崎市は28日、原爆の爆心地に近い同市松山町の平和公園で、19年ぶりとなる平和祈念像の塗り直しに着手した。竹中銅器(高岡市美幸町、竹中伸行社長)が業務委託を受けて担当。像の周りに足場を

に決意

周年迎えた
団体代表ら

組んで2月中旬までに全体をシートで覆ってから、本格的に作業する。青みがかったきれいな姿で市民や観光客の前にお目見えするのは、3月下旬の見通しだ。

長崎市によると、祈念像は風雨の影響で、表面のあちこちで塗装が剥げ落ち、白っぽくなっていた。そのため、塗